



かけはし

令和2年9月（第6号）

公益財団法人 豊島修練会

事務局：成美教育文化会館（内）

TEL:042-471-6600 FAX:042-471-6600

HP「成美教育文化会館」で検索】

月より団子！

今年の春は、新型コロナウイルスの感染防止のために、花見はお預けになりました。勿論、桜の花見です。

でも、多くの人たちは、「花より団子」で花はそっちのけ、3密で、美味しい物をつまみながら酒を酌み交わし楽しめます。

この状況を「花より団子」と言います。これは、「花見で綺麗な花を眺めるよりも、美味しい団子を食べる方がいい」ということです。転じて、名より実利を重んじることや、風流の分からない人のことを「花より団子」と言うようになったそうです。

ところで、秋には中秋の名月（十五夜、満月）を鑑賞する習慣があります。今年は、10月1日（旧暦8月15日）です。現在は少なくなりましたが、昭和時代は、団子やすすき（おばな）をお供えて、家族で満月を楽しんだものです。もっと昔は、月見団子、里芋、枝豆、秋の七草（ハギ、キキョウ、クズ、ナデシコ、すすき、オミナエシ、フジバカマ）を飾り、満月を鑑賞したそうです。

団子を食べると健康と幸福が得られ、すすきは稲穂の代わりで、農作物の豊作や子孫繁栄を願う意味があると言われていました。

面白いことに、お供えた団子を誰かに盗られると縁起がいいと言われました。そんなことで、私の子供の頃は、友だち数人とあちらこちらの家の庭に忍び込んで、お団子をたくさん集めたものです。



子どもにとっては、満月を仰いで観賞したり、稲の豊作や家族の健康に感謝するよりもまずは団子を食べたり、よその家の団子をもらったりすることの方が楽しかった思い出があります。まさに、「月より団子」だったのです。

（「月より団子」の KH）

<備考> [成美教育文化会館]で検索すると、「かけはし」「メッセージ」「Q&A」「ほん本ブック」をはじめ「一字荘」「至楽荘」「成美教育文化会館の会場貸出」など様々な情報が閲覧できます。一度、検索してみてください。



活動紹介!




むさしの民謡

活動が始まってから、20数年以上の歴史をもつ伝統あるサークルです。月2回、水曜の午前に集まり、三味線、尺八に合わせて日本の民謡を朗々と歌い上げます。現メンバーは、10名程です。少人数とはいえ、どなたもかくしゃくとされ、活気に溢れていらっしゃいます。

北海道無形民俗文化財の江差追分を後世に継承していこうと、皆さん熱心に稽古に励んでいらっしゃいます。



9月の催しから

- 5(土) 10時～
美音の会 声楽発表会
- 6(日) 10時～
ドルフィンギター発表会
- 12(土) 13時～
ピアノ発表会 
- 13(日) 10時～ 季俳句会
- 13(日) 13時30分～
楽茶会 
- 19(日) 13時～
九条の会 講演会
- 20(月) 13時30分～
市民連合 講演会
- 22(火) 13時30分～
ピアノ・声楽発表会 
- 22(火) 13時30分～
席の会

会館事務室から



今月の話題 - 秋の月夜

秋は、空気中の水蒸気が少ないため月がはっきりときれいに見える季節です。「中秋の名月」などと言われるように昔から月は月齢やその時々見え方や様子によって、様々な呼び方をされてきました。心のゆとりをもって月を眺めていた人々の気持ちが伝わってきます。

月出は十五夜から毎日約50分ずつ遅れ、呼び名を変えていきます

- ・十六夜：月が出るのをいざよう（ためらう）様子なので「十六夜月」
- ・十七夜：月出が遅くなり、まだかまだかと立って待つので「立待月」
- ・十八夜：月出を待ちくたびれて座ってしまうので「居待月」
- ・十九夜：もう床に入って月出を待つので「寝待月」
- ・20日目の月：夜も更ける頃に月出するので「更待月」
- ・26日目の月：夜明け（有明）の空に昇るから「有明月」
- ・7日目の月：半月・弓張月 3日目の月：三日月・眉月
- ・微かにかすんだ月：朧（おぼろ）月 青く輝く月：青月
- ・寂しげに見える月：孤月 大変な時勢ですが、月夜を楽しんでみませんか。



